

まちづくり推進援助制度を活用してエコプチテラスを造成、環境問題へのメッセージを発信

—空き地を利用してキウイを植える—

六町の「足立グリーンプロジェクト」を推進する「ハイランドプラン」の皆さん



地表温度が異常に上がるヒートアイランド現象などの環境破壊に対し、それを食い止めるための実践で区民へのメッセージを発信しよう」と、都の区画整理事業が進む六町1丁目周辺の住民が、まちづくり推進援助制度を活用、雑草の生い茂る2千平方メートル近い区有地を借用して耕し、「エコプチテラス」を造成して活動しています。

この団体は、アメリカで環境問題のNPO活動を10年間やってきた六町1丁目在住の平田裕之さん(29)が代表をつとめる「ハイランドプラン」で、事業名は「NPO 足立グリーンプロジェクト」。昨年9月29日の区有地の雑草取り、開墾時には10人ほどでスタートしましたが、現在は約130人が「エコボランティア」として登録しています。「エコプチテラス」が誕生

した場所は、区が区画整理事業代替地として確保している六町1-11。平田さんたちは、まず空き地の3分の1にキウイの苗を植え、高さ2・5メートルの棚を作りました。キウイは、つる性で繁殖力が旺盛で、4坪の棚でクーラー1台分の冷却効果があると言われています。

さらに、残りの土地を52区画に分けてエコ農園として住民に開放したところ、続々と近所の住民が集まり、この運動の担い手になりました。生ゴミの堆肥化で肥料を作り、ソーラーパネルでモーターを

動かした貯めた雨水を流すなどすべてが自然の循環で行う画期的な取り組みです。賛助企業も続々と参集。

平田さんは、「住民が生き生きとこの自然循環の事業に参加して来ています。このプロジェクトを必ず成功させ、条件さえあれば区内のどこでもできることを証明したい」と話します。

自主的なまちづくり活動を進める 団体を支援します

〈エモ〉

まちづくり推進援助制度は、自分たちの住むまちを「より快適に」「より便利に」変えていこうという区民の皆様のみちづくり活動を側面から支援する事業で、幅広い活動が対象となります。どしどしご相談をお寄せください。



足立クリーンプロジェクト

集まったエコボランティアの皆さん。後がキウイの棚



「土に触りたい。自然と触れたい」と開墾作業に続々集まった住民たち。昨年9月



お問い合わせ まちづくり公社
☎3880・5711